

## 自閉症児における社会的参照行動 3項関係における表情刺激の機能化の条件

○熊仁美・山本淳一

慶應義塾大学大学院社会学研究科・慶應義塾大学文学部

○Hitomi Kuma・Jun-ichi Yamamoto

Keio University, Graduate school of Human Relation・Keio University

keywords: autism, social referencing, joint attention, facial expression, dyadic and triadic communication

### 問題と目的

社会的参照とは、曖昧な状況や刺激下の随伴性において、他者の表情やしぐさを弁別刺激とし、反応する行動を指す。この行動は、事象や出来事の安全さ、報酬的な価値に関する情報を得るという機能を持つ (Gewirtz, Pelaez-Nogueras, 1992) 自閉症児は社会的参照に欠陥を持っているということが示唆されているにも関わらず、そのことについてはほとんど研究がない。本研究では、自閉症児が社会的参照の学習が可能であるか明らかにすることを目的とした。

### 方法

**参加者:** 自閉症児3名が参加した。生活年齢平均は5才、新版K式発達検査による発達年齢平均は3才であった。  
**刺激:** 透明な瓶、実験者が提示する表情であった。社会的参照課題のベースライン&介入&プローブにおいて使用した3つの瓶は透明で、回して閉めることが出来る蓋がついていた。ベースライン&プローブ時には、この瓶を覆うことができる伸縮性のある黒いカバーを3つ用いた。  
**実験デザイン:** 参加児間多層ベースライン法を用いた。  
**セッティング:** 実験者は、床に正座した状態で、参加児は椅子に座って机をはさんで向かい合って着席した。



図1 社会的参照課題セッティング

**手続き:** (1) ベースライン&プローブ (図1): 黒いカバーをかぶせた3つの瓶を使って、強化刺激がどれに入っているか分からない状況を設定した。実験者は強化刺激の1つを瓶に入れている様子を見せてから、瓶をランダムに移動し、「あけてごらん」と指示を出した。参加児は実験者の表情の変化を見ながら瓶を探索し、選択することを求められた。参加児の参照に対して、実験者から表情でフィードバックが行われた。1試行の中で表情は笑顔が1回、怒り顔が2回ランダムに提示された。4試行を1ブロックとした。(2) 介入: ①カバーを外した3つの瓶を使用し、玩具やパズルなどがある・ない瓶と表情を視覚的に対提示②協力児が瓶を触った際に実験者の顔を参照するよう身体ガイダンス③笑顔と怒り顔に対応した分化強化、の3つの操作を実施した。(3) 一般化プローブ: ベースラインにおける人、場面、表情それぞれについて一般化条件を設定し、評価した。(4) フォローアップ: 一般化プローブ終了の3ヶ月後に、ベースラインと同様のテストを行った。

**従属変数:** 1ブロックにおける怒り顔選択シフト、自発的参照、笑顔選択の正反応率であった。(1) 自発的参照: それぞれの瓶を開ける前に自発的に実験者の表情を参照する行動が生じた割合 (7機会/Block) (2) ネガティ

**ブ表情選択シフト:** 怒り顔の提示後に違う空き瓶に選択をシフトする行動が生じた割合 (3機会/Block) (3) **ポジティブ表情選択:** 1試行において参加児が笑顔提示の瓶を選択する行動が生じた割合 (4 機会/Block)

### 結果と考察

3名の自閉症児が、本研究の介入により社会的参照行動を学習し、人、表情、場面の3条件全てに一般化がみられた。2参加児において3週間と1年後のフォローアップでも行動の維持が明らかとなった。結果から、社会的参照の生じやすい場面を設定し、適切な支援を行うことにより、自閉症児の行動において他者の表情刺激が弁別刺激として機能化することが分かった。さらにそれが多様な場面にも一般化したことで、構造化された場面で獲得した行動を様々な場面で利用できることが示された。

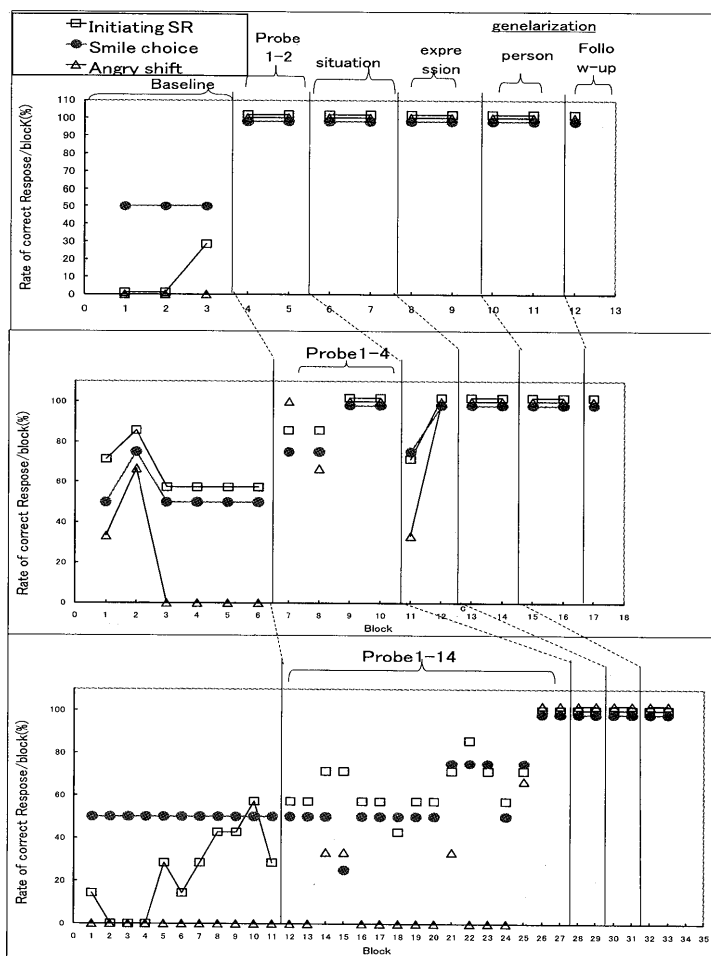


図2 社会的参照行動の介入の結果

### 引用文献

Gewirtz, J. L., & Pelaez-Nogueras, M. (1992). Social referencing as a learned process. In S. Feinman (Ed.), Social referencing and the social construction of reality in infancy. New York: Plenum Press.